

最悪のシナリオ

野瀬 隆平

潜水艦から潜望鏡をあげて見回すと、サンフランシスコが見える。しかし、そこには人の気配は全く無く、街が不気味に横たわっているだけだ。第三次世界大戦によって、地球が放射能で汚染され人間が生存出来なくなってしまったことを描き出す衝撃的な映像。

これは、今から六十年以上も前に、米ソの冷戦下で作られた映画の一シーンである。「渚にて」というロマンチックな題が付いているが、核戦争の恐ろしさを描いた映画だ。

ロシアによるウクライナの侵攻。長期化の様相を呈し、収束の見通しが見つからない。ロシアがどんな詭弁を弄しても、武力による侵略であることは明らかで、正当化出来るものではない。ウクライナの側に正義があるのは明白で、あらゆる手段を使って阻止しようと戦っており、多くの国がこれを支援している。

しかし、戦いを続ければ、それだけウクライナ、ロシアの双方で死者が増えることになる。正義を貫くには大きな代償を伴うと云うことか。

多大の犠牲を払って、ナチス・ドイツを打ち破ったソ連。その国がナチスと同じような立場に追い込まれているかに見えるのは、正に歴史の皮肉と云えよう。ヒトラーは愛人と共に自殺を計り自らを清算した。

さて、追い詰められたロシアのプーチンは、世界中の人間を道づれに、この世から消え去ることになるのか。

アインシュタインは、こんな予言をしていた。

「第三次世界大戦がどのように行われるか私にはわからない。だが、第四次世界大戦が起こるとすれば、その時に人類が用いる武器は石と棍棒だろう。」

いや、これは人類が全滅せず、一部でも生き延びたとしての話だ。

地球上に我々人類という生物が存在した痕跡として、遠い将来「人新世」と云う新たな地層が確認されることになるだろうと云われている。そこに見出されるのは温暖化による変化の跡だけなのか、あるいは放射能まみれの破壊され尽くした構造物も含まれているのだろうか。

悪夢よ！ 早く覚めてくれ。